

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：32690

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370498

研究課題名(和文)ベルベル語表記体系の変遷をたどり、ティフィナグ文字を再構築して、文法書を作成する

研究課題名(英文)Transition of Tifinagh Script : its reconstruction

研究代表者

石原 忠佳 (Ishihara, Tadayoshi)

創価大学・文学部・教授

研究者番号：10232331

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：「ベルベル人一般は自らの話し言葉を、書き言葉としてどのような方法で書簡に反映したのか」が三年間を通じての一貫した研究テーマであった。2016年3月、スペイン国立カディス大学で開かれた最終的な共同研究の報告会では、モロッコにおけるベルベル系若者を対象にした聞き取り調査の結果を報告し、その信憑性を検証する目的で、個人が使用したFacebookや携帯電話などの実際のメッセージを引き合に出した。調査の結果の総括として「ほとんどの若者は通信の際に、話し言葉としてのモロッコ・アラビア語を使用し、文字盤に表出されないアラビア語特有の発音には、数字を当てはめてメッセージを綴っている事実がある」と結論した。

研究成果の概要(英文)：Throughout the period(2014-2016) my research has focused on the topic "How the Berbers transcribe their speech in their correspondences in Morocco". At the congress which was held in March 2016 at the University of Cadiz in Spain, after having referred to some informants I concluded that in recent days young people tend to transmit his/her message in Moroccan Arabic dialect. They write their messages on their mobile phone using signs which were invented by themselves.

研究分野：ティフィナグ文字とベルベル語方言学

 キーワード：ティフィナグ文字 ベルベル語諸方言 ベルベル文字の変遷 ベルベル語話し言葉の表記法 Abjad ポ
 エニ文字 古代リビア文字

1. 研究開始当初の背景

1990年以前はいわゆる第三世界に対して、さしたる関心を示すことのなかった我が国とは対照的に、西欧諸国では既に80年代に、さまざまな少数民族のアイデンティティをめぐらる問題に着眼しはじめていた。応募者がそれまでの研究で知り得たさらなる史実は、ベルベル族のイベリア半島侵入は8世紀に始まったことではなく、すでに2世紀初頭のローマ帝国支配期に、北アフリカからベルベル人の一団が南スペインに上陸し、略奪や破壊を行っていたことである。このような歴史的背景を十分考慮に入れ、とりわけチュニジアで勃発した「アラブの春」以降のベルベル人の動向を今後は把握する必要があると考えた。さらに本邦において現在まで実施されてきた「ベルベル」に関する研究は、ムラービト朝(1050~1147)とその後のムワッヒド朝(1130~1269)の役割を、歴史的観点から探るものが主流であり、ベルベル語自体の言語学的考察はほとんど顧みられなかった。また古代には北アフリカ広範囲で使用されていたベルベル語の領域が、現今ではごく限られた地域に縮小されてしまった事実も、その言語学的研究を低迷させた。こうしたこれまでの経過も、本研究を開始した要因の一つとなっている。「ベルベル」に関連する研究テーマは、彼らの存在が国家の基盤を揺るがしかねないとの懸念から、モロッコをはじめとする北アフリカの多くのアラブ国家では長年タブー視されてきた。したがってベルベル語に関するテーマは、フランスのINALCO 国立東洋言語文化研究所(Institut National des Langues et Civilisations Orientales)を中心としたヨーロッパの研究所機関で続けられてきた。しかしながら1999年状況は一変する。モロッコ国王ハッサン 世の逝去後、父親を引き継いで即位したムハンマド 世は、その後2003年にはベルベル語教育を公の場に導入する法令を發布し、北アフリカ

の研究期間でもベルベル語やベルベル文字の起源などを紹介する書物が刊行されるようになった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ポエニ文字から古代リビア文字を経て派生したとされるティフィナグ文字を再構築し、今日北モロッコ一帯で使用されているベルベル語(タリーフィート語)をティフィナグ文字で表記することである。その理由として、ベルベル語は北アフリカ全体で約2500万人の話者を抱えているにもかかわらず、ベルベル語をティフィナグ文字で表記した書物が本邦では今日まで刊行されていないこと。これまで「ベルベル語は綴られることのない話し言葉である」と認識され、文字として書きとどめられることがなかったこと。ベルベル語の使用地域は北アフリカ各国に飛び地的(Enclave)に散在しているため、どの地域の言葉を「ベルベル語」として定義するかが困難であったこと。などがあげられる。

3. 研究の方法

一口に「ベルベル語」と言ってもその分布は、モロッコ北東部のタリーフィート語(Tarifit)、中央アトラス山脈一帯のタマズィフト語(Tamazight)、モロッコ南西部大アトラス山脈周辺のタシュリヒート語(Tashlihīt)語に細分化できる。今回は、以下私を含めた4人の研究者が各地域の調査を分担して実施し、書き言葉としてのティフィナグ文字アルファベットとベルベル語話し言葉の関連性を示すのが研究の主旨であった。

石原忠佳(創価大学文学部教授)

Jordi Aguadé Bofill(スペイン国立カディス大学哲文学部主任教授)

Mohand Tilmatine(スペイン国立バルセロナ大学ベルベル言語・文化研究センター主幹)

Francisco Jiménez(アブデル・マリク大学付属レルチュンディ図書館館長)

Mohammed Tahrouchi (アブデル・マリク大学
付属レルチュンディ図書館司書)

応募者は Lerchundi 研究所図書館
M.Tarhouchi 司書と共同で北モロッコリーフ
山地一帯のフィールドワークを実施して、ま
ずはリーフ地域をアラビア語単一使用地帯
とベルベル語・アラビア語二言語併用地帯の
二つに分類し、さらに以下の5項目を検証す
る目的でこの地域の言語地図を作成した。2
年目以降は Aguade 教授およびスペイン国立
バルセロナ大学ベルベル言語・文化センタ
ー主幹 Tilmatine 教授と情報交換を行い、テ
ィフィナグ文字を併記して Tarifit 語文法の
概観を明らかにし、巻末にベルベル文字を紹
介した語彙集を掲載した。

第1期 2013年8月1日~9月4日

通常の定住民族の言語とは異なり、遊牧民
によって使用されてきたベルベル語は、その
使用地域が平面上に広がるのではなく、飛び
地状(enclave)に点在していることから、等語
線(Isogloss)を用いた言語を定義する際の従来
の方法論では十分とは言い難い。このような
理由から、近年欧文で発表された文献を、ス
페인高等学術研究所図書館(CSIC)におい
て閲覧し(8月10日まで)、その後は在モ
ロッコ テトゥアン Abdelmalek Essadi 大学
付属レルチュンディー研究所(Centro cultural
Lerchundi Biblioteca Universitaria, Martil) 図書
館に移り、館内に保存された原本写本と照合
する。それらを手がかりに、Tetuan から al -
Hoceima にいたる次の5つの集落でフィール
ドワークを実施し、モロッコとアルジェリア
におけるベルベル語細分化方言の素性を示
しつつ、以下の点を明らかにした。

1) モロッコ北東リーフ山脈におけるアラビ
ア語単一使用地域とベルベル語細分化方言
(Tarifit) 併用地域はどのような輪郭を描い
ているのか

2) この地域で話されている Tarifit に、アル

ジェリアで話されているカビール語
(Taqbaylit) の影響は確認できるのか。

3) できるとすれば、それはどのような側面
に反映されているのか

使用文献 : Lafkioui, M. / V. Brugnatelli, (eds):
Berber in Contact, Linguistic and Sociolinguistic
Perspectives (2008), *Berber Studies* vol. 22,
University of Leiden,

Lafkioui, M.: Atlas linguistique des variétés
berbères du Rif, (2007)., *Berber Studies*, vol.16,
University of Leiden,

Rabdi, L.: Le parler d'Ihbachen (Kabylie
Orientale-Algérie). Esquisse phonologique et
morphologique, (2004), *Berber Studies* vol 7,
University of Leiden,

フィールドワーク実施集落 : Ayt Weryaǧel, Ayt
Temsaman, Ayt Tuzin, Ayt Wrišek, Ayt Sa'id

第2期 2014年2月23日~3月26日

第1期に引き続き、レルチュンディー研究
所図書館において、Ahmed Boukous 著
Sociolinguistique marocaine, Plurilinguismes,
Sorbonne, Paris, 1999. および、*Phonologie de
l'amazigh*, Institut de Recherche et Coordination
Acoustique/Musique, 2009. を拠り所として、
アラブ人とベルベル人の居住地域に関連す
る最新事情を確認し、リーフ山脈周辺におけ
るアラビア語単一使用地域とアラビア語と
ベルベル語(Tarifit) 二言語併用地帯の変遷
を時代別に整理する : イスラーム先史時代、
イスラームが進出した8世紀前後、イベ
リア半島からの移民が増加した14世紀以
降、モロッコで国勢調査が実施された19
36年以降。

聞き取り調査には、レルチュンディー研究所
の Mohammad Tahrouchi 研究員が同行した。
なお調査のベースとしたのは、以下2点の資
料である。

Anonymous "Le dernier document en berbère de
Tamentit", *Awal* 1, 1985.

René Basset, "Notes de lexicographie berbère",
Journal Asiatique, ser. 8, vol. X, 1887: p. 390.

第3期 2014年8月1日~9月8日

Fez 経由で東方 100 km 周辺のターザ回廊 (Taza) に入り、ベルベル語細分化方言 Tarifit と Tamazight の境界線を大まかに把握した。この地域一帯は従来アラビア語単一使用地域であるが、Ignacio Reyes García 著ベルベル語辞典 *Amawal Esekenamazigh*, Canarias, (2006) によれば、Bni Znasen の一部を形成する Bni Drar はベルベル語使用地域であったとの指摘を拠り所として、いずれの細分化方言が使用されていたのかを地域別に選別した。

第4期 2015年2月23日~3月25日

サンハージャ地方 (Sanhaja de Sraïr) における飛び地 (Enclave) の言語調査を実施した。この時期最も力を入れた調査のひとつは、サンハージャ地方のベルベル語が北部の Tarifit ではなく、モロッコ南部の Tašelhait とどの程度の類似性を示すかを検証することであった。モロッコ南部のベルベル部族が、モロッコ北部のこの一帯に移り住んだ事実は、以前の調査で明らかとなったが、その歴史的背景と移住の年代を具体的に示す資料を収集・整理した。Ketama から国道 2 号線に沿ってリーフ語の現状を把握する目的で、集落名にベルベル語の接頭辞 /-ayt/ とアラビア語 /-bni/ の両者をもつ集落をリストアップした。使用文献：Peter Behnstedt, "La frontera entre el bereber y el árabe en el Rif", *Estudios de dialectología norteafricana y andalusí* vol. 6, 2002.

フィールドワーク実施集落：Ayt a'mart, Igzennayen

第5期 2015年8月1日~9月8日

北モロッコ・リーフ山地一帯の言語事情を、

「文語と口語」という側面から概観した報告書の作成を、8月中旬より「在ラバト モロッコ国立ベルベル文化研究センター」(Institut Royal de la Culture Amazighe) で開始した。具体的には、ベルベル語とアラビア語の二言語併用地帯において、ベルベル語話者は自らのメッセージを書きとめるため、どのような手段を用いるかを判別する作業が中心となった。アラビア語を使用するのか。ベルベル語自体をアラビア文字で表記するのか。かつて保護領下にあった時代のフランス語、もしくはスペイン語などの外国語を書き言葉として選択するのか。

こうした点を明らかにする目的で、テレビやラジオなどのメディアの普及で、日常生活におけるどのようなベルベル語の語彙が、借用語としてフランス語やアラビア語に取って代わられたのかを、あらかじめ把握してから作業に臨んだ。

第6期 2016年2月24日~3月10日

スペイン国立カディス大学哲文学部で開催予定の報告会において、研究協力者である M. Tilmatine 教授との意見交換の場をもち、フェニキア・ポエニ文字の変遷とベルベル人がかつて使用していたティフナグ文字との関連性を検証した。引き続き同大学イスラーム研究所主幹を兼任する Aguade 教授にフィールドワークの最終的な報告書を提出した。附属コンピューターセンターで収集された音響データベースを随時抽出し、これまでに実施された研究・調査ですでに確認されていた言語現象を参考に、報告書作成のための補助資料とした。

4. 研究成果

2014年3月『ベルベル語とティフナグ文字の基礎 - タリーフィート語入門 - 』(春風社)を研究成果として刊行した。2014年8月20日以降その後アルジェ

リアとの国境の町 Ahfir に入り、この地域のベルベル語細分化方言が Tarifit か Tamazight か、あるいはアルジェリアの Taqbaylit の素性を示すのかを、検証する計画であったが、この一帯における治安悪化が懸念されたため、この地域における口語の素性調査は断念せざるを得ず、今後の課題として持ち越す結果となった

5. 主な発表論文等

雑誌論文

石原忠佳「消滅危機言語としてのベルベル語」創価大学人間学論集 9 (2016), pp.1-17. ISSN 1882-7942 (紀伊国屋書店)

石原忠佳「北アフリカ史の中のベルベル語言語的側面からの検証3 - 」創価大学人間学論集 8 (2015), pp.71-93. ISSN 1882-7942 <http://hdl.handle.net/10911/4210>

石原忠佳「北アフリカの先住民民族 ベルベル人のルーツを求めて」公益財団法人 平和中島財団 国際学術研究助成 研究成果報告書 {平成23～25年度}(2014)pp.10-18.

石原忠佳「ユネスコ《消滅機器言語》ベルベル語とティフィナグ文字の復権」季刊『アラブ』(日本アラブ協会)149号(2014年6月20日発行) pp.22-24, <http://japanarab.jp>

石原忠佳「ベルベル人の言葉探訪」日本経済新聞(2014年5月2日)

学会発表

石原忠佳「自書を語る: Introducción a la lengua rifeña y la escritura Tifinagh」(2015年3月)アブデルマレク大学文学部(Tetouan, モロッコ)

石原忠佳「リーフ戦争の立役者 アブデル・カリームの抵抗運動」(2014年8月)国際会議:『ヨーロッパ・アフリカ・アラブ: 異文化の融合』アブデル・マレク文学部附属図書館(Tetouan, モロッコ)

石原忠佳「ベルベル語細分化方言の現状: アラビア語使用地域とベルベル語使用地域」(2014年3月) Seminario de Biblioteca Lerchundi アブデル・マレク文学部附属図書館(Tetouan, モロッコ)

石原忠佳「ベルベル音楽の起源をめぐって - 津軽三味線とトアレグ音楽に共通するもの - 」(2013年8月)『21世紀のリーフ(2013): 第二回モロッコベルベル会議』アルホセイマ市民センター(al-Hoceima, モロッコ)

石原忠佳「日本におけるベルベル語教育の展望」(2013年8月)『第二回アマジグ夏期大学』アルホセイマ市民センター(al-Hoceima, モロッコ)

図書

石原忠佳『ベルベル語とティフィナグ文字の基礎 - タリーフィート語入門 - 』春風社

(2014), 225 ページ ISBN 978-4-86110-394-0

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

〔学会発表〕(計 6 件)

〔図書〕(計 1 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石原 忠佳 (Tadayoshi Ishihara)
創価大学・文学部・教授

研究者番号: 10232331

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: